

吉田茂と岸信介

表題の本は安井浩一郎・NHK スペシャル取材班による。岩波書店から 2016 年 7 月に刊行。関心のあるテーマなので手にとった。本書のポイントは副題「自民党・保守二大潮流の系譜」に示されている。「まえがき」から。

戦後政治とは何だったのか。この壮大なテーマを、吉田茂と岸信介という二人の政治家を源流とする保守の二大潮流から紐解き、現在の政治状況の歴史的な座標軸を探ることが、本書の狙いだ。

吉田と岸の二つの路線は、私たちの民意を受けてせめぎ合い、揺れ動きながら、戦後日本を形作っていった。もちろん、二つの路線は対立するものではない。吉田も本心では憲法改正を考えていた形跡があるし、岸も商工官僚の出身であり、経済政策にも大いに力を入れた。

しかし、何を最優先の国家目標とし、国家の基軸をどこに置くのかという基本姿勢に、大きな違いが見られるのは紛れもない事実である。そして二人の掲げた理念を基軸として、戦後政治を貫く保守の二大潮流が生まれていった。二人が中心となって生まれた「豊かさ、路線」と「自立、路線」という保守の二大潮流を通じて、戦後政治とは何だったのかを辿り、現在の政治状況を考える手がかりを見つけないというのが、私が持ち続けていた問題意識だった。

本書では、1945(昭和 20)年の終戦直後から 1960 年代までの時代を中心に、戦後政治を形作ってきた保守の二大潮流のせめぎ合いを、吉田茂と岸信介という二人の政治家を軸に辿る。この二つの路線は「ハト派とタカ派」、「保守本流と保守傍流」などとの呼び方もなされるが、そうした二元論を越えた、戦後政治の重層的かつダイナミックなせめぎ合いを描いていきたい。なお、本書は NHK スペシャル「戦後 70 年 ニッポンの肖像—政治の模索 第 1 回 保守・二大潮流の系譜」(2015 年 7 月 18 日放送)をもとに書き下ろしたものである。

戦後政治を振り返るうえで、やはり吉田と岸という二人の政治家が注目される。現在の政権を担う安倍晋三は、祖父・岸信介の影響を強く受けているとあらためて感じた。

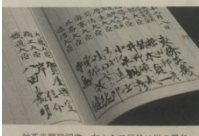
(2016 年 12 月 29 日)



談笑する吉田と岸(1960年5月8日)



東條内閣閣僚時代の岸、右は東條首相(1943年)



対高木閣議録 左から二行目に岸の署名



田市抽町で歓迎を受ける岸

岸に抱かれているのは当時二歳だった岸の孫、安倍晋三氏